

Desert Wind (No. 7)

Las Vegas Japanese Community Church

JUNE 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集: 平山未樹

『ゴールデンルール』

LJVCC 牧師 鶴田健次

全米だけでも1000店以上の店舗を持つ米国最大の百貨店である J.C. Penney は、創業当時、ゴールデンールの店と呼ばれていたことがあるそうです。『ゴールデンール』というのは、マタイの福音書7章12節の言葉である『何事でも人々からして欲しいと望むことは、人々にもその通りにせよ』という教えのことです。

創業者の J.C. Penney は彼のために働く人々を従業員と呼ばず、仲間と呼び、自分が彼らからして欲しいと望むことを彼らにもしたそうです。彼はこのゴールデンールを生きることによって、ワイオミングの小さな店から始まったビジネスを全米一の百貨店に成長させたのです。J.C. Penney はこの聖書の言葉に従って、顧客を大切に、愛と尊敬と親切と理解とをもって、顧客満足を第一にした経営方針を徹底させました。それによって買い物客たちは満足し、また次もこの店に買い物にきたいと思うようになるわけです。今ではこの顧客満足 (CS) というのはビジネスの常識ですが、これが J.C. Penney の成功の秘訣でした。

この聖書の言葉はビジネスの世界だけでなく、すべての人にとって人生の成功と幸福の秘訣です。だから『ゴールデンール』と言われているわけです。イギリスの著名な数学者であり、また哲学者でもある、ノーベル文学賞を受賞したバートランド・ラッセルは、『自らの幸福を望んでも、他人の幸福を望む心と一つにならない限り、それは何の役にも立たない』と言いました。つまり、本当の幸福とは、他人との関わりの中からはじめて実感できるということです。

あなたはこのゴールデンールを生きてらっしゃいますか。自分がして欲しいと思うことを人にもその通りにする。家庭で、職場で、学校で、教会で、すべての人間関係のあるところでこのゴールデンールを生きることが出来れば、あなたの人生は本当に豊かなものになるでしょう。

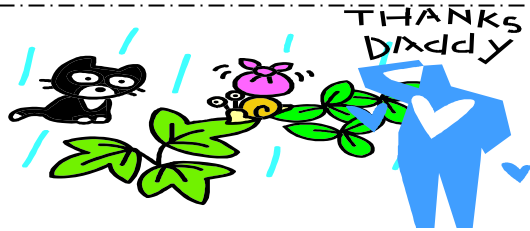
しかし人間の生まれながらの性質は、相手が自分に好意的な態度を見せてくれれば自分もその人に好意を表すという自己中心なものです。実はそこが問題なのです。イエス様は、自分に好意的な人にだけ好意的でありなさいとは言っておられません。『何事でも人々からして欲しいと望むことを、人々にもその通りにしなさい』と言ってらっしゃるのです。しかし、そうするには、どんな人をも愛していこうとする心が私

ちになければなりません。どんな人をも愛する心は、イエス・キリストが私たちの心の中心にしなければ生まれてこない心です。

使徒パウロはピリピ人への手紙で『キリスト・イエスの心をあなたの心としなさい』と言いましたが、このキリストの十字架の愛を経験することなしに、私たちは人を本当の意味で愛する心を持つことは出来ません。

イエス様は、『隣り人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなた方の聞いているところである。しかし、わたしはあなた方に言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。』と言われました。敵を愛することなど私たちに出来ません。しかし、ここで私たちが忘れてはならない大切な原則は、イエス様が私たちに何かを命じられる時、イエス様は私たちが必ずそれを出来るように助けて下さるということです。

アンドリュー・マーレイは、『私と神の関係は、私と人との関係である。だから神との関係に失敗すれば、人との関係にも失敗する。』と言いました。あなたもまず神様との関係に成功し、『ゴールデンール』によって人との関係にも成功し、豊かな人生を生きて下さい。



案内・ニュース

・ ナツコ Ruiz 姉のお父様は ICU を出られ回復に向かっておられます。

・ 鶴田牧師の義兄(鈴木和義氏)が肝臓ガンの手術をされました。他への転移はなかったとのことです。

・ 恵子 Morris 姉のお母様が腰の骨を骨折し手術をされました。

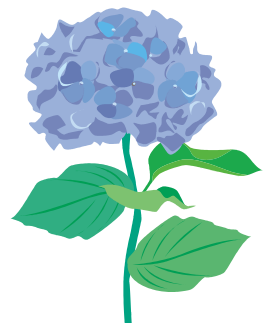
(3名の方々の回復をお祈り下さい)

・ 5月28日は David Funeral Home にて ベイリー Millard 兄、ヘンリー 亀井兄、高崎力雄兄のメモリアルサービスがもたれました。

・ 5月30日はお好み焼き会がもたれ多くの方々が参加されました。

DREAMS COME TRUE

- ✦ 教会堂の建設
- ✦ 敬老ホームの設立
- ✦ 幼稚園の設立



証し

松岡幸夫

主イエス・キリストの御名を信じ、神に罪を告白し悔い改め、クリスチャンとして生きる栄光を与えられた事を感謝します。主の復活と、永遠の生命の真理を私の回りのすべての人々に伝え、主イエス・キリストを通して、神からの愛が私に注がれている恵みと、喜びを分け与えるため、主によって示された神の国の証を致します。

私はキリスト教信仰と出会うまでは、団塊世代の典型的な生活を送ってきました。26歳で渡米し、その前後を挟み、同棲時代、結婚生活、子供を2人授かり、平凡に暮らしていました。良い友人にも恵まれ、酒やギャンブルも楽しみ、文庫本を乱読し、週末はボート遊び、そして社会や政治の問題にもある程度目を向けていました。

大きな転機が訪れたのは、40代前半の頃です。私をアメリカに呼んでくれ、仲の良かった17才違いの姉が61歳の若さで亡くなり、又私の自己中心で傲慢の結果離婚することになりました。この後の約10年間は肉体的に相当無理な生活を送っていました。霊的にもサタンがパートナーでした。こうした神に背を向けた生活が祝福されるはずがありません。2002年に大量の吐血をし、死んでもおかしくない状況から神はもう一度生きるチャンスを与えて下さいました。集中治療室の中で生きているのではなく、生かされている事を漠然と感じていました。神様の御計画は時に応じて素晴らしい御業を表します。この病によって断酒が私に与えられました。そして何が私の中で働いていました。それは予感的、直感的なものであり、その働きでギャンブルも辞めました。大好きだった酒とギャンブルをやめ、煙草まで止めてしまったのに、精神的には余裕のある

生活でした。予感的なものを信じて生きていた時期であり、それが何であるかは全く分かりませんでした。その後ある女性を通じて、今の妻と知り合う機会が与えられました。初めて会った時に予感的なものが現実となりました。

彼女に導かれるまま教会に行き、そこは砂漠の中のオアシスである事を実感し、居心地の良さを覚えています。今まで感じた事のない平安があるのです。私が酒、ギャンブル、煙草その他の関心のしない行いを止め、妻によってクリスチャンに導かれた事は私の人生にとって最大の喜びです。神の恵みと愛する妻に心から感謝致します。

クリスチャンになって一番喜んでくれたのは2人の娘でした。又、私達の結婚にも大賛成で喜んでくれました。これからも娘達が福音の中に喜びを見出せる様、神の証を伝えていきます。日本では団塊の世代の定年が始まりました。定年後の話題が華やかです。趣味やボランティア活動を持つべきという意見が多い様です。それが出来る体力、金銭力がある時はいいが、それが無くなればどうなるのか？私の様な定年のない自営業も仕事を生きがいにしているうちはいいが、体力的、精神的に続かなかった時はどうなるのか？

私は主によって信仰を与えられ、私に最も欠けていたもの、本物の「愛」と「平安な心」をどうすればいつも持てるかを教えられた恵みに感謝しています。なぜなら、信仰を持った事によって、趣味やボランティア活動、旅行活動をする体力がなくても寝たきりの生活でも充実した思いで生きていけます。どんな状況でも祈りだけは続けて行けますから！

主にあって私をここまで導いてくれた全ての愛する兄弟、姉妹達、最愛の妻、そして娘達に心から感謝の祈りを捧げます。アーメン